

日本患者・家族団体協議会

3月
1988

SSKO

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29

全腎協内

☎03(952)5340/FAX03(953)1750

購読料1部300円(年間1,500円送料込)

仲間 No.11

社会保障予算を増して!

63年度予算で
JPC代表ら 復活要請

昭和六十三年度予算政府案は十二月二十八日の閣議で決定されましたが、これに先立つ十二月二十四日、JPCは社会保障予算の拡充を求めて復活要請行動を行いました。

長代表幹事を先頭に福島県難病連、心臓病、ス全協、全肝協、全交災、全腎協、パーキンソン、日患同盟の各団体の代表ら八団体四十二人が厚生省、大蔵省の各大臣、関係局長、担当課を訪ね要請書を提出しました。

この日要請したのは、①社会保障予算の大幅増額②難病の医療費公費負担の対象拡大と研究費の増額③国立医療機関の充実と、統廃合、地方移譲反対④結核、精神の公費医療優先の存続⑤結核難病感染症課の存続、充実⑥「福祉医療制度」の創設の中止、国保制度の拡充⑦生保基準の大幅引き上げ⑧障害年金制度の拡充、年金額の引き上げ、すべての障害者への年金の支給⑨国保制度をはじめ社会保障制度の国庫負担率の引き上げの九項目ですが、⑤の結核難病感染症課の存続・充実については、別

途要請書を提出しました（関連記事三面）。また、各参加団体がそれぞれ独自にかかえる問題についての要請も行いました。

厚生大臣に代わって応対した大臣付野山氏は、「皆さんの要望は理解している。皆さんのご期待に応えられるよう頑張る」と答えました。（写真）

また、北川保健医療局長は、「様々な患者団体が一同（JPC）に集まるのはすばらしいこと、皆さんの要望に応えられるよう復活折衝にのぞみたい」としつつも、結核難病感染症課の廃止・改組については、「成人病などへの対策の強化のための改組であり、治療研究疾患の対象増をはじめ難病対策の充実はあるが後退につながるものではない」と答えました。

結核難病感染症の廃止・改組はすでに政府案に盛り込まれており、七月から「保健医療対策課」がスタートします。私たちはこの廃止・改組によって国の施策はもとより、道府県の難病対策が後退しないよう注意しなければなりません。



JPCの活動

事業活動は難病の理解から

——業者也交え家庭雑貨販売担当者研修会

一月十六、十七日東京・品川の全社連会館で初めての「家庭雑貨販売事業担当者研修会」が開かれました。研修会には十一団体から十八人、また業者は五社から十三人が出席しました。

いま、どこの患者会でも財政対策には頭を痛めています。昨年からJPCでは花火、家庭雑貨の販売、協力会員の募集を各地で開始しまし



た。しかし一方で手間が大変なのではないか、取り組みのにはどうしたらよいかなどの疑問もあり、それに応えてJPCでは担当者の研修会を開いたものです。

小林事務局長のあいさつのあと、伊藤達雄幹事から「資産造成事業の意義と患者会活動」「難病とは何か」などの説明があり、雑貨販売で得る収益が患者会の活動資金になるが、

参加者の感想

秋田難病連 山崎 洋一

「物売り」というたいそう難儀なイメージ。「患者団体がそこまでやれるかいな」ごく当り前のそんな意見に対して、考え直させる内容を持った研修会でした。

実際はそれほど難儀しくなくても収益が見込める。つまりJPCと実施団体の大きな財源となる。しかも町内会には商品のカタログと一緒に患

2

何よりもまず社会に対して難病というものを理解してもらうこと、また患者会の活動も理解してもらうことが大切であることなどが強調されました。このあと、北海道難病連の活動がビデオで紹介されました。

二日目は北海道難病連で雑貨販売を担当している菅原道子さんから苦情・問い合わせの実例と、実際の処理の方法など細かな説明がありました。

また業者の代表からは「患者運動の実態をPRしていくことが事業の成果にも結びついていく、独自の方法で正確に行なうようにしていきたい

い、難病連とでも頑張りましょう」とあいさつがありました。

次年度以後の開催については、事業を推進、拡大しながら、担当者や業者の学習を深め相互に励ますために毎年開催したいと参加者から強い意見がありました。

最後に古川幹事から「この研修会で得た成果を各地に持ち帰って、事業を一步前進させてほしい、次回はもっと多くの団体が参加できることを望み、二日間が飛躍の第一歩になることを期待します」とあいさつがあり、第一回目の研修会を終了しました。

々の活動にはただただ脱帽いたしました。

交流会では母と梅崎園子さんと食事をつとめているところへ大栄産業の大河原さんが私に「電話で苦情がきたらケースバイケースで謝りなさい。誤解してこちらを批難する時はその旨言っていから」とおっしゃられ少し緊張がほぐれました。

翌日のトラブルの実例と処理の仕方の際は資料を見て、苦情がきたとき即座にトラブルを処理できるのか心配になりました。正直に申せば、難病連の歩みより実例に即したトラブル処理に多く時間をさいて下さっ

心臓病 藤崎 千史

先日JPCの雑貨販売研修会に参加させていただき北海道難病連の方

の方が私には有難かったのですが。

福島県難病連 上遠野良之

一月十六、十七日の両日にわたって開催されたJPC家庭難病販売事業研修金に参加させていただきましたが、担当業者さんらを交えて難病患者が抱えている医療、生活等の諸問題について認識を深め合うことができ、また、今この患者会でも財政対策が大きなネックとなっているところですが、そうした背景から当会でも昨年から事業活動を取り組みました。今回の研修では、北海道難病連等におけるすぐれた経験を聞くことができ、特に苦情や問い合わせなどの実例や処理の仕方について細

やかに説明を受けとても参考になりました。

今回の研修を生かして、事業活動を通じて難病連活動をより一層充実させるための収益をめざすとともに、広く一般県民に難病問題について理解を深めていただく運動をすすめていきたいと思っています。

例大栄産業 森 茂

研修会に初めて参加させていただきましたが、初対面の方々がほとんどであったためそれなりに緊張感がありました。

理念、実務にわたっての研修はすべて北海道難病連の事業推進を「踏み台」にしましたが、正直いっ

て二日間の日程では各団体、参加企業とも納得の度合に多少の開きがあったように思われました。

今回は初めての会合でしたが、この点、今後は参加企業と各団体との細部にわたる話し合いが必要ではないかと思われました。このほか、お互いの理解を深めるためにも次回以降の研修会ではより以上に活発な意見の交換がなされるように切に希望し、JPCに対してもっと周囲の人々の理解が広がっていくことを願っております。

私たちも地域難連の実情を深く理解するよう努力していかなければならないと思いますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

難病、結核おろそかにしない

全国保健医療課長会議で厚生省強調

厚生省はことし七月一日から結核難病感染症課を廃止し、新たに「保健医療対策課」（仮称）を設置する方針を打ち出していました。六十三年度予算の政府案決定により、政府案が国会を通過すれば正式決定される見通しとなりました。

結核難病感染症課の廃止と新しい課の創設は、厚生省によれば、高齢化社会の到来と疾病構造の変化に対

応するもので、現在、保健医療局のもとにある老人保健部を大臣官房に移し、老人の医療と福祉に対応する組織改革を行うこと、現在は窓口のない成人病対策を担当する課を設ける必要があることなどから機構改革を行うものと説明しています。

これに対してJPCでは、同課の廃止は難病対策や結核対策の後退をもたす可能性があり、また都道府

県の難病対策の後退にもつながりかねないと、厚生省に反対の申入れを行っていました。

これに関連して、二月十八日に開かれた全国保健医療・老人保健関係主管課長会議で、厚生省・金森結核難病感染症課長は、「関係の患者団体から反対あるいは存続の要望があるが、改組は結核、難病対策をおろそかにするものではなく、従来以上に取り組んでいかなければならないものである」と全国の担当課長らを前に特に強調して説明しました。

県単事業

◆重度心身障害老人特別助成金支給事業 【対象】身体障害者手帳一、二、三級所持者。同四級で戦傷病者手帳所持者。療育手帳所持者上記手帳所持者で老人保健医療の受給者。【支給内容】老人保健法による一部負担金。【所得制限】なし。

◆乳児・重度心身障害者・母子家庭助成事業 【対象】一歳未満児、身体障害者手帳一、二、三級の所持者。同四級で戦傷病者手帳所持者。療育手帳所持者。十八歳未満児を現に扶養している配偶者のいない母と該当児。父母のいない十八歳未満児。

岐阜県

【支給内容】保険給付対象医療費のうち自己負担額を給付。

【所得制限】世帯総合所得税額六万円未満。特別児童扶養手当制限額準用。児童授養手当制限額準用。

◆その他 ①公衆衛生向上対策事業費として県より四百四十万円の補助金。②難病患者の保健指導相談事業費として県より五十万円の委託金。③心身障害者団体運営事業費として県より五十万円の補助金。

在宅医療・福祉に力点

厚生省63年度予算2.9%増

〇・二%増にとどめられました。

昭和六十三年度予算政府案は、昨年十二月二十八日の閣議で決まりました。予算総額は五十六兆六千九百九十七億円で対前年度比は四・八%増となりました。このうち社会保障費は十兆三千八百四十五億円で前年度比二・九%増ですが、防衛費の伸び率五・二%増とGNP比一%増を二年連続で突破したのと対照的に低い伸びに抑えられています。

厚生省予算で目につく点は、数年前から強化されている高齢化社会に向けての各種対策にいつそう力点を置いていること、医療も福祉も施設対策より在宅対策重視の方向が強化されていること、年金・手当の増額が極めて低額に抑えられていること、エイズ対策を重視し大幅な予算増額が図られたことなどです。

年金額の引き上げは、物価上昇が低かったとして〇・二%で、厚生年金のモデル年金が夫婦月額三百七十五円、拠出制国民年金が九十二円、老齢基礎年金が百九円、老齢福祉年金が百円など据え置きも同然です。生活保護基準、児童扶養手当、特別児童手当、特別障害者手当も同じく

在宅医療、在宅福祉をめざす施策では、訪問看護サービスモデル地区十カ所ではじめること、家庭機能モデル事業を四カ所で行うこと、医学的リハビリ施設増強のため自治体病院に運営費の助成を行うこと、老人保健施設を二十カ所増設すること、健康増進事業推進のため健康増進指導者、運動普及推進員の養成、モデルセンターの整備、クアハウス、アスレヘルスクラブへの融資などがあげられています。

社会的な大問題になっているエイズ対策については十二億四千四百万円があてられ、医薬品の開発、日米医学協力などの事業のほか、国立エイズセンター、エイズ医療情報センター、エイズ研究センターの経費も予算化されています。

このほか、特定疾患治療研究事業（難病の公費負担）は一疾患増、精神障害者の社会復帰促進事業、腎不全予防対策、臓器技術臨床研究開発、結核・感染症サーベイランスシステム開発などが六十三年度に新たに開始されることになっています。

4

医療・福祉のうごき

1月

▽1日 昨年一年間に生まれた子供は推計百三十五万五千人で、統計をとり始めた明治三十二年以来最低となったことが厚生省の「六十二年人口動態統計の年間推計」で明らかになった。

▽12日 脳死と臓器移植の問題を検討してきた日本医師会の「生命倫理懇談会」は、脳死を人間の個体死とし、それを前提とした臓器移植を認める最終報告書を羽田医師会長に提出した。

▽13日 国民の栄養のとり方は平均では合格点だが、一日に食べる食品数は二十二と、厚生省の指針を大幅に下回り、脂肪やカロリー、ビタミンA、鉄などが不足している家庭もそれぞれ三割前後を占めることが厚生省の「六十二年国民栄

養調査」結果でわかった。

▽14日 「患者サービスの在り方に関する懇談会」の初会合が開かれた。患者の要望にあつた医療サービスの実現を図るため厚生省が設けたもので、年内に「患者サービスガイドライン」の形で報告書をまとめる。

▽26日 男性の第一位が秋田県で女性の第一位は石川県。これは厚生省が発表した「六十二年版全国健康マップ」のうち胃ガンの「標準化死亡比」の順位。

2月

▽5日 日本移植学会は脳死を前提とした臓器移植の臨床応用について、スタッフ、設備などの基準を設けるなどの方針。

▽5日 世界保健機構の発表では世界各地のエイズ患者は七万五千人を突破。依然増加の一途をたどる。

▽6日 四十歳以上の人たちの八割が成人病に対して不安を抱えていることが健保連の調査でわかる。

1・2月

厚生省の「六十二年国民栄

標準化死亡比

病気に、都道府県などの死亡率が全国統計に比べて高いか低いかをみるための指標。自治体の死亡率は年齢構成に左右されるため、その偏りを補正します。まず

自治体の年齢階級別死亡率が全国と同じと仮定して、死亡者数をはじき出し、実際の死亡者数を割って百倍したものが標準化死亡比となります。全国平均は一〇〇。

健康マップは毎年異なる病気の標準化死亡比を発表しています。

がんばれ患者会

こんな活動しています

憲法40周年の節目に

憲法が制定された四十周年目の節目を迎えた五月の県難病連總會で、憲法に記されている、より人間的な生活が営まれているのか、また、この精神の具現化のためにいかなる努力が難病患者に払われ、生かされているのか、じっくり見直し、運動の基本理念としていくことを誓った。

その第一弾として、「難病患者（児）の実態調査」を実施することになった。五十年難病連発当初から懸案だったもので、兵庫県に存住する難病連加盟団体の会員を対象に医療と生活の実態とそれに対する患者の考え方を調査する。現在配布中で、三月集計、結果報告の予定である。

神戸市難病連では昭和五十七年に第一回調査を実施し、浮き彫りにされた生活実態をもとに、毎年開かれる患者、行政、医師から成る三者懇談会で難病対策を考えて

いく上での大きな資料となっている。現在、資金集めに東奔西走している。

「難病条例」制定をめぐり

「難病条例」制定をめぐる動きとして神戸市難病連が去年六月、難病手帳の交付、予防研究体制の確立、広報活動を骨子とした陳情書を提出、市議会で口頭陳述、審

共に楽しく送れる人生を

議の結果、国へ市議会長名で「難病対策拡充に関する要望書」の提出となった。

九月には、地難連近畿ブロック会議を京都で開催し、京都、大阪、滋賀、奈良、兵庫の代表十六人が一堂に会し意見交換を行った。十二月には兵庫県宛陳情書を提出した。今後、神戸の火の手を契機として大きなうねりとなって広がっていくことを期待したい。

病はあろうとも

難病連として最大の行事「医療と生活と教育」の相談会を神戸、日本海側豊岡、中間地三田、そして淡路島の最南端三原での開催に取り組んでいる。各回とも二百人余の人々が早朝から列をなし、熱気溢れる会場の光景である。

開催にあたって地域行政、医療、患者とのかけ橋になり、慶蒙活動に重点を置いて動いている。

県主催による「難病対策保健婦

兵庫難病連

研修会」が開催され、難病連から十六人が参加し、各々難病患者の実情を発表し、大変好評であった。

この研修会は、難病患者が可能な限り自立した生活が営まれるよう訪問指導等に携わる保健婦が、難病に対する正しい知識や技術を習得するとともに、地域において来年度以降の事業化の中心的役割を担うことを目的に開かれた。

続いて、厚生省の訪問看護、介

護モデル事業に指定され、注目されている尼崎市で保健婦研究会が近日開かれる。「難病患者の実状―保健婦に望むこと」と題して、発表の機会が与えられる。

今後、地域で行政と医療と患者とが連携し、価値観の転換期を迎え、病はあろうとも心を拓き、共に楽しく人生を送れる努力をしたいと思う。

事務局 千六五〇 神戸市中央区

北長狭五四五 中尾ビル2階 兵庫県腎友会内

☎ 〇七八三七一四三三八二



医療・生活・教育相談会にて

幸せの輪を広げよう

互療会静岡支部 森本 京平

「幸せは感謝から

不幸は不満から」

前にこんなことを聞いたことがあります。「幸せは感謝から生まれ、不幸は不満から生まれる」と、オストメイト（人工肛門・人工膀胱



第18回互療会定期総会

造設者）の生活はなにかと不便や苦勞の多いものですから、つい愚痴も出たくなるかも知れませんが、しかしよく考えてみると大いに感謝し、幸福感をかみしめなければならぬことに気づきます。

昔なら到底助からなかった命を、今日の優れた医業の技術によって助けられ、さらに社会保険や福祉の制度による恩恵を受けていることは、医療関係者や社会に大きな恩を感じるとともに、この幸せを維持することが大切だと思います。

そのためには、特別の事情がない限り、自分の健康上一番大切な腸内の状態を常に順調にして、良い排便を保ち、便処理のために、貴重な時間や費用をできるだけ少なくすることができれば最高でありましょう。

病氣なんかに負けないぞ！

それには新しい知識を取り入れる会合に、前向きに参加したり、オストメイト同志がお互いに話し合い助け合って行くことが大切なことです。

社会復帰が

社会への恩返し

その目的で各支部は、常に会合を催し、会員ならびに社会一般に呼びかけをしているのですが、一度も参加したことのない人が相当おります。

それらの人達のなかには、ストーマ（人工肛門・人工膀胱の排泄口）を持つてゐることを恥ずかしく思つて、隠している人や、早からの経験者であっても、半ばあきらめて新しいことには関心を持たないで、不便な日常生活に耐えている人も多いようです。

私達は今までも、また将来も受けるいろいろな恩恵を意識して、感謝によつてその花を实らせるとともに、その仲間の輪を広げることと恩返しのひとつではないでしょうか。

その門を開くにあたり、まず必

要なことは、「ストーマを持つてゐることは、恥ずかしいことではない」という信念を、自分自身から定着させ、それを医療サイドをはじめ社会全般に広げて行くことであり、同情を求めることなく、権利ばかりを主張せずに自立の道を歩み、一日も早く社会復帰をすることが社会に対しての恩返しと信じます。

互療会紹介

互療会は、ガンや潰瘍性大腸炎などの病気で大腸等を切除し、人工肛門や人工膀胱（ストーマ）を造設した患者（オストメイト）の会です。療養の交流、福祉の向上など幅広く活動し、昭和五十九年には人工肛門・人工膀胱造設者も身障法の対象になりました。

本誌第9号、当コーナー掲載の京都難病連高谷修氏の住所は「長岡京市」の誤りでした。訂正いたします。編集部



職安へ行つて

心臓病の子
供を守る会 盛岡 靖子

他人に何と思われようと気に病むものではないけれど、自分自身で自分のことを「役立たず」と思つてしまふのはとても哀しい。心臓機能障害というハンディから人並みの体力は望めず、人より一歩も二歩も遅れ、迷惑をかけるばかりの私だけれども何かできることがあるのではないかと、できるならば仕事をしたいと思ひ続けてきた。それで最近体調が落ちついてきていることや、どうせ迷惑かけついでという開き直りから職業安定所に行つてみた。

もとより仕事が見つかるとは思つていなかったが、まず「毎日勤めに出るのは大変なのですが」と切り出したところであちまち困つた顔をされ「在宅でできる仕事に職業訓練が必要ならば受ける準備はあります」と言つたところで、訓練校には

在宅でできるデザイン関係等の科目はあるが、基本的には職安の対象は「通常勤務」のできる者なので仕事の斡旋はしかねると断られてきた。担当の方が親切で、困惑しているのがよくわかるだけに申し訳ないような気にもなるのだが、やはり体力のなさというのは大きなハンディだと改めて思つた。

それにしても、障害者の雇用として「通常勤務」以外の勤務形態があつても良いのではないかと思う。内職だつていいけれど、本当の社会参加の意味で閉じこもることもなく、きちんと就職したいと思うのは我ままなのだろうか。とりあえずは無為の生活に戻り、何か別の方法を考へてみようと思つたところである。

感動した交流集会

京都 前田こう一

透析十六年目の冬、高血圧脳症を合併し約一月昏睡とけいれんを繰返し死線を超えて以後、懸命なリハビリにもかかわらず足腰が弱り、杖をたよりに歩くようになりました。こういう身体で大阪から二本松への旅行は私にとって正に生命がけでした。全国交流集会には北海道から九州まで約百二十名の仲間が集まりましたが、恐らく私のような苦勞の末

辿りついた仲間も少なからずいたのではないかと思います。

私はパーキンソン病友の会の河野馨さんが、いつも影の如くつきそつているボランティアの佐藤さんと共に参加されているお顔を見て、涙ぐむほど大きな感動を受けました。私が初めてある集会で河野さんにお会いしたのはもう十年近くになります。その時河野さんはフラフラの姿で現われ、後から奥さんが革帯をつかんで支えられながら前のめりに歩いていました。その集会で河野さんは言語障害でうまく話せないながらも同病のパーキンソンの仲間がどんな苦しい療養生活を強いられているかについてトツトツと訴えられました。その言葉のひとつひとつに長い歳月の苦しみの重みに耐えてきた難病者の真実の姿があり、会場も一瞬シンとしたことを憶えています。

また、私は岩手県内村の増田先生のお話に大きな感動を受けました。「村民の健康は村政が一切責任を持つ」と老人医療の無料化を断行した故深沢村長のお話を聞き、ここにこそ本物の血の通つた医療と福祉があると実感しました。昨年十二月私達京都難連は京都府と集団交渉をもちましたが、府サイドはありきたりの官僚答弁に終始しました。膠原

病友の会の女性会員が膠原病は全身性の難病で離婚して単身で暮している者も多い。先日そんな仲間から、「ホームヘルパーが来てくれず二、三日水ばかり飲んで寝ていた」と深刻な実態を訴えたのだけれど……。

私達が二年にわたつて交流会の主テーマとしてとり上げてきた「地域医療づくり」こそはまさにこうした声なき声の仲間の苦しい療養生活を一歩でも具体的に改善してゆく、真に血の通つたものでなければなりません。

憲法で保障された社会保障の理念にもとづく「公費医療制度」を私達は死守しなければなりません。そうでなければいくら医学や医療が進歩しても、その進歩の恩恵を私達は平等に享受することができなくなるでしょう。

今こそ私達はかつて生命をかけて朝日訴訟を闘つた朝日さんのように、あるいは河野さんのように、私達日本の患者運動が生み出したすぐれた難病者の人間像から学び、身体が苦しくとも精神は格調高く氣力をふりしぼつて仲間といっしょに闘おうではありませんか。

私は全国交流集会に参加してこうしたことを痛感したこと自体よかったと思つています。

伝言板

JPCに事務局員



岩本操さん

結成後はじめての専任事務局員としてJPCでは、三月十六日付で愛知県半田市の岩本操さん（二十三歳・写真）を採用することになりました。

岩本さんは和歌山県新宮市の出身で、日本福祉大学社会福祉学部を卒業しました。大学では「ブルース研究会」に所属するなど個性的な青年です。

事務局員の採用は、JPC結成当初からの懸案であり、若く有能な人材を得てその活躍が大いに期待されています。どうぞよろしく願います。

総会日程決まる

一月十一日の第十回幹事会で、JPC第三回総会は六月五日に開

催することになりました。会場などの詳細は、改めて各会の皆様にお知らせします。

協力会員募集中

昨年七月から募集している「特典付協力会員」の申し込みは、二月十八日現在で百三十六人、二百二十三口です。引き続きJPCでは財政的にJPCを支えることを通じて、JPCの運動を支援してくださる方に協力会員となつてくださるようお願いいたします。

夜明けを拓く―朝日茂の手記(編集・解説長宏)を出版

「人間が人間らしく生きたい」という生存権擁護を訴え、「人間裁判」と呼ばれた朝日訴訟の原告、朝日茂さんの手記。憲法制定後四十周年、朝日訴訟終結後二十年の節目にあたり、また生存権が各方面で侵害されつつある今日、多くの民主主義運動に理念と道しるじを示した朝日訴訟は意義深いものです。現在、各分野で反響を呼んでいる一冊です。▲定価千五百円、送料二百五十円。ご希望の方は日患同盟事務局まで

団体通信

▼群馬県難病連が抗議はがき厚生省の結核難病感染症課の廃止、改組に反対し存続を要請する抗議ハガキを出しました。

▼宮城県難病連がバネル展

一月十八日から二十三日まで難病の実態と患者の救済を訴える「病気のおそろしさ」バネル展が仙台市役所のロビーで開かれました。難病連に加盟する県内の腎臓病、リウマチ、筋ジストロフィー、慢性呼吸器障害などの患者の六団体が病気の症状や治療法のほか、障害を乗り越えた人たちの記録などについて資料を展示しました。

会場には医療相談コーナーも設けられ東北大、仙台社会保険病院の専門家が市民の相談にあたりました。

▼北海道難病連がJRなどに要請腎臓、心臓、低肺、人工肛門などの内部障害者も運賃割引の対象となるよう二月二日JR、航空各社、道路公団に対して要請行動を行いました。

▼神戸市難病連が講演会

神戸市との共催で難病者の生き方に関する講演会を二月十四日、神戸市勤労会館で開きました。テーマは「病氣と共に生きる」。

▼全腎協が国会請願行動

二月十六日、「腎疾患総会対策の早期確立を要望する」国会請願集会を開き、全国から六十二万九千九十分の署名を持ちより各党に要請しました。

た。この国会請願は今年で十七回目になります。

▼血友病患者が完全救済を決議

全国ヘモフィリア友の会は東京都内で総会を開き、「輸入血液製剤によるエイズ感染は、国などの安全対策が不十分なため起きた被害だ」として国と製薬会社に対し、「完全救済を要求することを決めました。」「完全救済の内容は」「医療費負担、生活補償、死亡した患者の遺族補償などが柱となっています。またエイズ法案については感染者らの人権を侵害するとして、各政党、団体に訴えるなど廃案に向けて運動を展開することに決めました。」

▼京都難病連が「山科ふれあい健康まつり」に参加

山科医師会、府、保険医協会などの主催で四月三日に開かれる「健康まつり」では展示、ヘルシーチェック、相談コーナーなどが催されます。京都難病連では「なんでも相談コーナー」と「模擬店」に参加することにし、出店する品物には難病患者の訴え文と、「励ましの一言を」という返信用ハガキを同封することを計画しています。



二月のはじめには春一番、ところが、また真冬に逆戻りしたこの頃の日本列島です。気候も情勢も厳しい毎日ですが、がんばりましょう。（佐藤）

目 次

○ 社会保障予算を増して！	89
○ JPCの活動	90
○ 在宅医療・福祉に力点	92
○ 医療・福祉のうごき	92
○ がんばれ患者会 こんな活動してます	93
○ 病気なんかに負けないぞ！	94
○ たよりの交差点	95
○ 伝言板 団体通信	96